

仕事の成功を考える（2）

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

学校や役所をはじめ、4月に新年度がスタートする職場は多い。4月に始まる新しい年度を一ヶ月後にひかえ、おそらく「みにむ」読者の皆様の最大の関心事である「仕事の成功」はどのように実現できるか、今回は考える。以下、お読みになりやすいようにQアンドAの形でお伝えする。

2. 仕事の成功を考える

Q：「仕事の成功を考える」とは、随分思い切った、また、大胆なテーマを選ばれましたね。

A：（林 明夫 以下略）どこへ行っても、景気がよくない、何をどうしたらよいかわからないという話ばかり耳にします。そんなに悩んでいるのなら、では、どうしたらいいか、みんなで知恵を出し合うことも必要かと思えます。「みにむ」の読者の皆様のお役に少しでも立てればと思い私の考えを述べさせていただきます。

Q：「仕事の成功を考える」のにまずどうしたらいいですか。

A：大切なことがいくつかあります。まず、第一に「仕事の成功を考える」上での先生をおもちになり素直なお気持ちで教えて頂くことです。

ただ、「経営の神様」のような人を先生として捜しはじめると、なかなか見つけ出すことが難しく、また、有名な人ほどお忙しくて、お会いすることすら困難でしょうから、お近くにいらっしゃる方で、しばらくの間、仕事の成功を考えることでお力を貸してくれそうな方を、先生となさることをおすすめします。

同じ職場の中に、これぞという方がいらっしゃったら、その方を先生として下さい。学校の先輩や、近くに住む方で、適任の方がおられたらその方を先生としてお選びになることもおすすめします。

Q：どのようにお願いすればよいのですか。

A：「ちょっとお願いしたいことがあるのですが、1～2ヶ月の間に何分かお時間をとって下さいませんか」と会う約束のお願いをし、会って下さることになったら、ズバリ「折角生を受けたのだから、一所懸命世の中のためになり、また、家族や自分自身の生活のために仕事をしたい。仕事の成功を考える上での私の先生になって下さいませんか」とご依頼なさることです。「1～2ヶ月に一度くらいお会いして、お話をさせて頂ければ幸せです」と余り先生の負担にならないお願いをすれば、まず断られることは少ないと思います。

激しい仕事を「リタイア」なさったばかりの方など、先生としてはうってつけです。

Q：先生をもつことですか。面白い考えですね。第2番目は何ですか。

A：「励まし合う仲間」をお持ちになることです。「仕事の成功を考える」上で参考になる勉強会に入れさせて頂くことは、悩んでいるのは自分だけではないと気づき、また、いろいろな取り組みを

しているのを知る上でとても有用です。ただ、どんな立派な名前がついていてもグチのこぼし合いや、遊びに走りがちな会合は、知り合いはできても「仕事の成功を考える」のにはむいていません。

どこに行けば「励まし合う仲間」と出会うことができるのか。身近に、そのようなグループがあれば入れてもらうのが一番ですが、もしなければ、少しアンテナを広げている人にお聞きすることをおすすめします。取り組むテーマをお持ちの方は、思い切って日本で最も熱心なグループに入れてもらうことをおすすめします。同じ一生を送るなら、日本で最も熱心なグループの一員にならせて頂く方が充実した「生き方」ができると思うからです。

Q：「仕事の成功を考える」上での「先生」と「励まし合う仲間」を見つけたらどうしますか。

A：第3番目に、勉強したり、考えたことを少しずつ実行してみることが大事かと思えます。「仕事の成功」を頭の中で考えているだけでは、結果は出ません。「きのうのように今日があり、今日のように明日があればよい」と思っていると「明後日（あさって）はない」のが厳しい現実です。（公務員や外郭団体職員も、法律がどんどん変わって、総定員が削減されたり、失業が生じざるを得ないほど、国家や地方財政は、ほぼ破綻の状況にあります。一千万人の公務員や外郭団体の皆様も、ボーとしている訳にはいきません。）

これぞと考えたことは、思い切って行動に移して試みるのが大事です。今までと違った行動をすることが、どのような意味をもつか。一人ですむお仕事ならともかく、チームを組んでやっている仕事の場合は、相手や、メンバーの理解が必要です。どのように、理解して頂くか、最終的には、ご協力願うか。

他人を説得するには使命感（ミッション）は欠かせません。同時に、前と異なった考え方や行動をするメリットとデメリットを正確に認識して両者をつなぐにかけ、メリットの方が格段に大きいことを証明することも必要です。仕事が格段にしやすくなること、客数や売り上げ、利益が大幅に増えることなども、会社などでは必要となります。

公務員や外郭団体の方には黒澤明監督の「生きる」が、サービス業の方には伊丹十三監督の「スーパーの女」が参考になります。医療や福祉サービスの方は、同じく黒澤明監督の「赤ひげ」が、学者や研究者は、「野口英世博士」の生き方が仕事を考えるヒントとなります。

Q：一般論は、わかりましたからもっと具体的に「仕事の成功」について考えて下さい。

A：わかりました。それでは少し難しい内容に入りますので、がまんしてお読み下さい。①何が仕事上での問題か「問題点を発見」すること。②その問題の本当の原因は何かを推定すること。この「原因の推定」のためには、「なぜ、なぜ、なぜ」と頭のシンのいたくなるまで自問することが大事です。仕事上の「問題点の発見」が行われ、その根本「原因の推定」ができたなら、③とりあえずどうするかという「緊急対策」の立案と、④何年かかけて、しくみをどうするかという「システム改革」案の立案が必要となります。

このように仕事能力を身につけたければ、①問題発見②原因の推定③緊急対策の立案④システム改革案の立案という四つの問題解決にむけての作業をたえず行い、「問題を解決する能力」を身につけることが大切です。

ただ、この「問題を解決する能力」はだまっけて身につく訳ではありません。日本も含めアメリカの流通業つまりチェーンストア志向企業がどこでも必ず行っている「ストア・コンパゾン」（店舗比較）という手法や、最近の経営学の教科書に必ず出てくる「ベスト・プラクティクス」（最善の実践例）の「ベンチマーキング」（実践例の自分の仕事への適用）が欠くことができませ

ん。

*「ストアー・コンパリゾン」や「ベンチ・マーク」の手法については単行本がたくさん出ていますし、セミナーもたくさん開かれていますので、大きな書店で注意深く参考書をお探し下さい。
(どうしてもわからなければお教えしますので、FAXで私まで連絡下さい。0284-73-1520)

Q:「仕事の成功を考える」のに参考になる本や雑誌はありますか。

A:本屋さんや図書館に行けば、山ほどあります。もし東京に出かける余裕があれば、東京駅の八重洲口にある日本で一番大きい本屋さんと言われる「八重洲ブックセンター」に半日くらいいて、じっくり探すことをおすすめします。買った本は、ゆっくりていねいに繰り返しお読みになり考えを深めることをおすすめします。

サービス業や流通業に興味のある方は、多店舗展開しているあらゆる業種の経営幹部に多大の影響を与え続けているペガサスクラブの主催者である渥美俊一氏の著書(「実務教育出版」や「商業界」から刊行されている本)を何冊かお読みになることをおすすめします。自らが多店舗展開する場合にも、また、多店舗展開している店を迎え撃つにも、どのような基本的思想、理論体系で量販店は成り立っているのかを渥美氏の著作で知ることができます。

3. おわりに

Q:日本人の仕事の質は高いと思いますか。

A:極めて高い、世界最高水準であると思います。学力低下が叫ばれましたが読み書き能力つまり識字率は限りなく100%に近く、これ以上望めないほど高いのが日本。勤勉性も極めて高く、待ち合わせをしても5~10分前には、ほとんど集合し、集合時間ピッタリにその団体は次の目的地に向けて出発するのも日本。遵法精神つまり社会のルールや法律を極めてよく守り、殺人や強盗などの凶悪犯罪が人口割で世界で一番とってよいくらい少ないのも日本。街中で落としたサイフを拾った人が交番や警察に届けるのも日本が一番と言われています。

憲法や九条があるため徴兵制がなく、学校を終えた人達が直ぐに仕事に就き、職場で、かなり本格的な企業内教育を継続的に受け続けるのも日本の特徴です。今やっていることが時代に合っているか否かをたえず考え、いつも反省しながら変化する世の中に自分を適用させようと必死になって勉強し続けるのも日本人の特徴です。このように高い仕事の能力を日本人はもつからこそ、世界のすべての国がうらやむ失業率5%以下を何十年にもわたって継続してきたのであり、現在も4.8%に止まっています。

Q:最後に一言どうぞ。

A:ただ、これからは中央や地方の政府の経済政策、財政政策の失敗のために大不況が更に深まり長引く様相を呈しておりますので、一人ひとりがもっと戦略的に自らの「仕事の成功を考える」ことが必要になってくるということです。「戦略的に」とは、「もっとまじめに遊びの要素なしに」という意味です。「遊びは遊び」「仕事は仕事」とキッパリ割り切って、たえず「仕事の成功を考える」上での勉強と具体的な行動を考えるべきです。

文系・理系に限らず、MBA(経営学修士号)コースになど、地方の人であっても、もっと積極的に取り組むべきかもしれません。

— 2001年2月12日記 —